

[Document ID]: INTEL-BRIEF-20260925

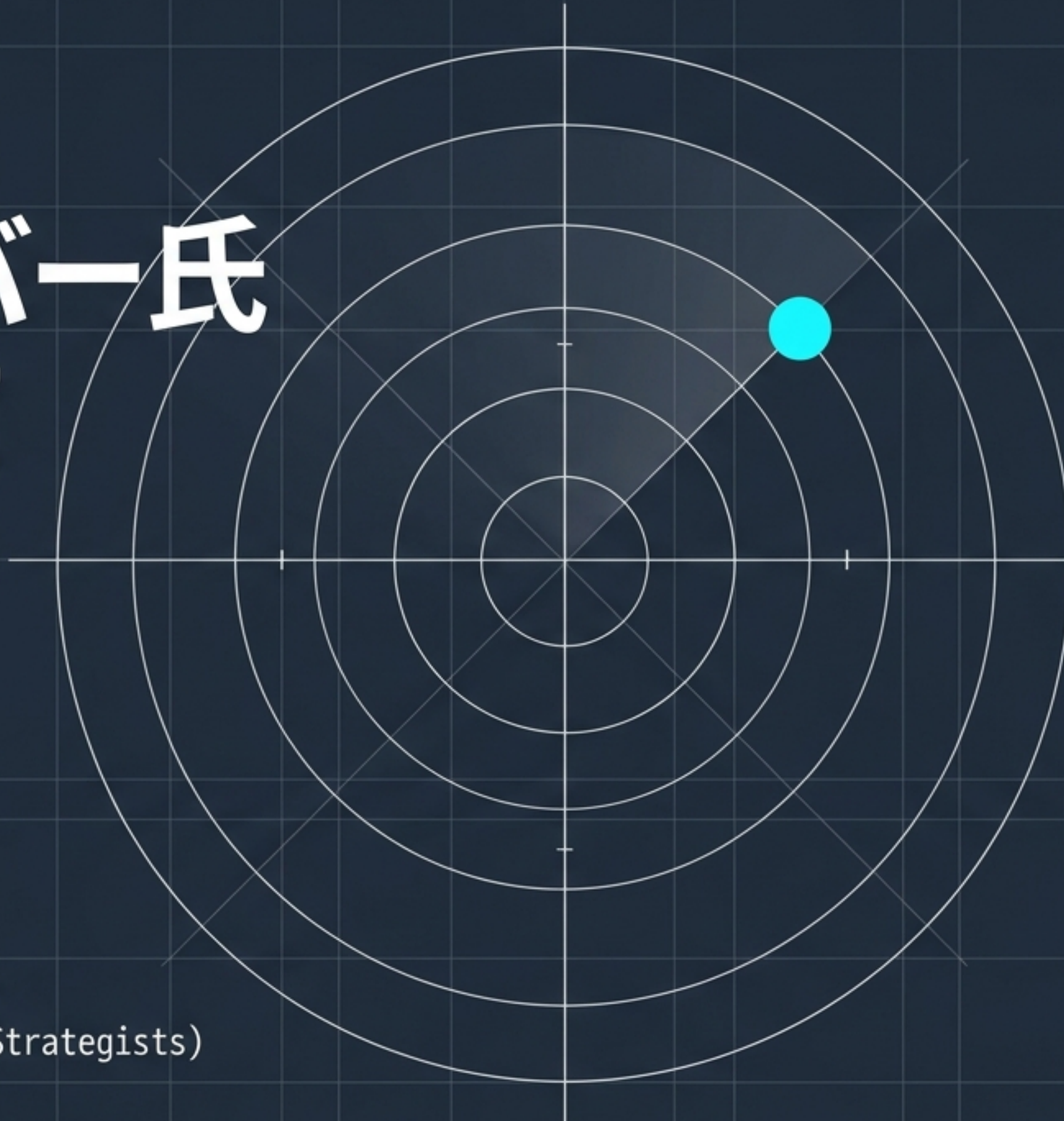
シュミットフーバー氏 のSakana AI参画

事実確認と影響予測 (Fact Check
and Impact Prediction)

[Date]: 2026年9月25日

[Source Baseline]: Claude Opus 5.5 Analysis

[Clearance Level]: 経営層・投資家・知財戦略部門向け
(For Executives, Investors, IP Strategists)



状況の俯瞰：ノイズとシグナルの分離

The Event

2026年9月24日、Sakana AIはユルゲン・シュミットフーバー氏のチーフ・サイエンティフィック・アドバイザー（CSA）就任を発表。RSI（再帰的自己改善）Labの「舵取り」を支援する。

【事実】 限定的な関与

常勤・東京常駐ではなく、現職と兼任し「定期的に東京を訪問」する助言型の参画である。

【推論】 最大の価値は「求心力」

短期的な技術ブレークスルーよりも、海外トップ人材の吸引と、ソブリンAI・防衛分野における信用力強化に直結する。

【推論/知財】 新たな法的リスク

自己改善型AI（The AI Scientist等）の導入推進と複雑な兼状態は、特許権の帰属と「人間の寄与」の証明という知財部門の新たな課題を生む。

人事プロフィール：関与形態の実態



ユルゲン・シュミットフーバー
(Jürgen Schmidhuber)

Chief Scientific Advisor (CSA)

- 拠点・頻度: 定期的な東京訪問（常駐ではない）
- 雇用形態: フルタイム雇用の記述なし
- 既存役職（兼任）: KAUST AI Initiative所長 / IDSIA所長 / juergen.AI創業者等（退任発表なし）
- 担当領域: RSI Labの研究方向性の助言（エージェントネイティブな世界モデルとフィジカルAI）

Misinformation Alert



【要注意】一部海外メディア（KuCoin等）はRSI Labを「率いる（lead）」と報じたが、公式発表は「guide（舵取り支援）」であり不正確。日常的な研究生産性への直接寄与は限定的と推測される。

Sakana AI コマンド・ダッシュボード (2026年9月現在)

資金調達・企業価値 (Funding)

シリーズB総額 約320億円 (2億ドル)

資金調達後企業価値 約4,320億円

累計調達額 約660億円

主要バックアップ (Key Backers)

MUFG

Khosla Ventures

NEA

Google

NVIDIA (シリーズAから協業)

SAKANA AI
CORP

防衛・官公庁案件 (Defense Contracts)

- 2026年3月:
防衛装備庁と指揮統制 (C2) システム高度化の複数年契約 (推定約9.7億円)。
- 2026年7-8月:
防衛省と「総合分析業務に必要なAI機能の調査・実証」契約 (推定約3.2億円)。

プロダクト (Products)



Fugu Max / Fugu Ultra v2 (マルチエージェント・オーケストレーション)

メディア・センチメント・スペクトラム：国内と海外の温度差

国内メディア (ポジティブ / ハイプ)

日本経済新聞・ITmedia：
『現代AIの父』の参画「RSI
研究のアドバイザー就任」と
大きく好意的に報道。

ソーシャルメディア (意見の拮抗)

Hacker News等：「ハイプ体
質（話題性重視）」とする
批判と、創業以来の進化的路
線の一貫性を評価する声が拮
抗。

海外テックメディア (冷静 / 現実的)

AlphaSignal: 「新モデルや実
証成果を伴わない人事。有用
性は測定可能な改善次第」

Superpower Daily: 「研究
目標の提示であって、動く
システムの提示ではない」

【推論】 本件は「話題性は極めて高いが、技術的な新規性を直ちに生むものではない戦略的人事」という評価に収斂しつつある。

思想的アライメント：なぜシュミットフーバー氏なのか？



Mainstream AI (OpenAI等)



Sakana AI + Schmidhuber

成長の原動力	スケーリング則（圧倒的な計算資源とデータ量による力技）。	「制約下の進化」とアイデア（計算資源の差を設計制約として逆手にとる）。
ターゲット領域	言語モデル中心（LLM）。	世界モデルを原動力とする「フィジカルAI」（日本の「ものづくり」再興へ接続）。
学習アプローチ	大規模な事前学習。	再帰的自己改善（RSI）とメタ学習。 1990年代のシュミットフーバー氏の源流思想と一致。

RSI（再帰的自己改善） ループ理論と現実のボトルネック

4. 新たな科学的発見が、次のモデル改善を呼ぶ。

1. 世界モデル (World Models) がエージェントの計画を可能にする。

Bottlenecks / Reality Check

【事実】 実証の限界

The AI Scientistの生成論文は査読を通過しつつあるが、同社自身も「素朴なアイデア」や「誤った引用」などの限界を認めている。

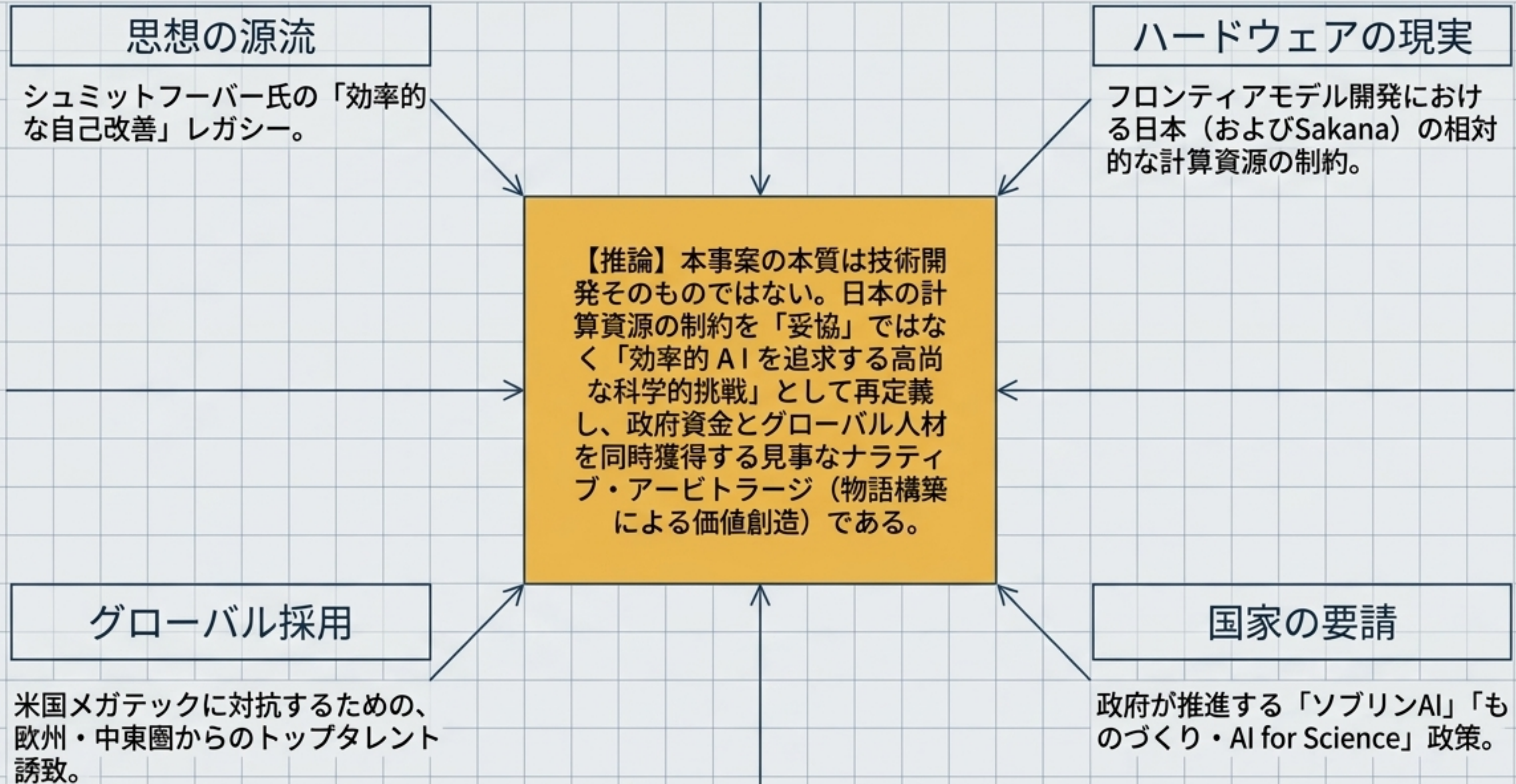
【推論】 外部評価の厳しさ

文献調査の浅さや、実験の失敗の多さが指摘されている。機械学習以外の分野（材料・生命科学等）での自律的発見の実証には大幅な時間を要する。

3. The AI Scientist が実験を自律的に設計・実行・論文作成する。

2. フィジカルAI (Physical AI) が実世界・シミュレーションで行動する。

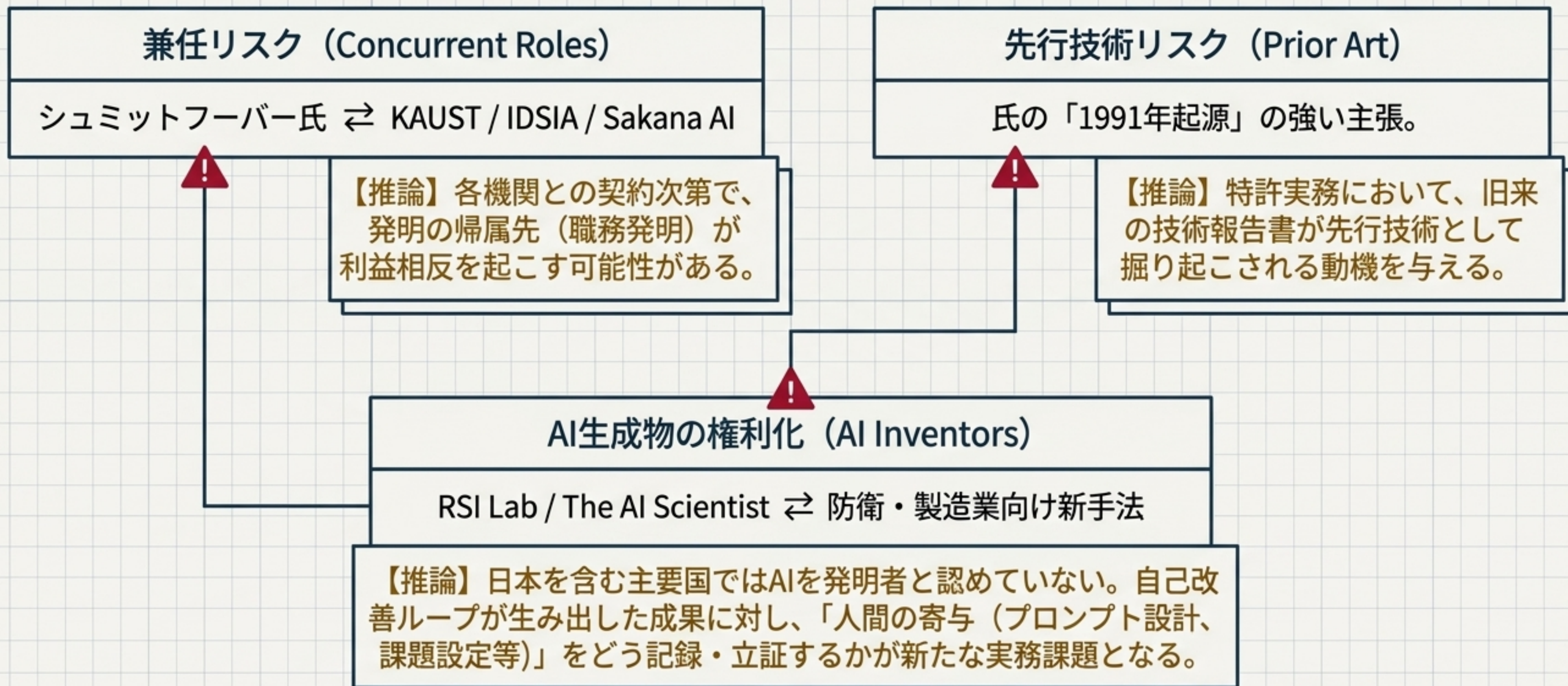
戦略的シンセシス：計算資源の劣後を「大義」に反転させるナラティブ



影響予測ヒートマップ (Impact Prediction Matrix)

	Low	Medium	High
採用・国際的存在感			採用・国際的存在感 欧州・中東の研究者ネットワークからの採用吸引力に直結。10月下旬の東京イベントが起爆剤となる。
研究方向性の転換		研究方向性の転換 言語中心からフィジカルAI・世界モデルへの重心移動が加速。年度内に新論文・デモの可能性。	
国内政策・資金調達		国内政策・資金調達 「効率型RSI+フィジカルAI+ソブリン」のストーリー補強。ただし実質的な企業評価はFuguや防衛案件の実績に依存する。	
研究力への直接寄与	研究力への直接寄与 兼任・定期訪問のため、日常的なコード記述や研究生産性への寄与は限定的。		
科学研究の完全自動化	科学研究の完全自動化 機械学習以外の分野での実用的な自律的発見が2026-27年に実現する確度は低い。		

知財・コンプライアンス上の潜在リスク (IP & Legal Friction Points)



結論とステークホルダー別アクション・ディレクティブ



投資家・アナリスト向け (Investors)

「現代AIの父」という呼称（コミュニティで議論あり）や話題性に惑わされないこと。企業価値はFugu・防衛・金融案件の収益と、自社ベンチマークの「独立した検証」を基準に評価せよ。



協業検討企業向け (Corporate Partners)

人事の話題性ではなく、RSI Labの「公開論文の再現性」「未見タスクでの汎化性能」「計算コストの開示」をマイルストーンとしてシビビアに評価せよ。



知財部門向け (IP Depts)

自己改善AI導入の前提として、AI生成成果における人間の寄与の記録フロー、兼任研究者との成果帰属条項、および独自ライセンスの適用条件を直ちに整備せよ。



当面のモニタリング指標 (Next Milestone)

10月下旬に予定される東京での一般公開イベント。具体的な「研究ロードマップ」「関与時間」「共同研究体制」が語られるかが、本事案の実質を測る最初の試金石となる。